

4 市町村の行財政の現況をお知らせします

現在、合併を検討している 4 市町村で行っている各種行政サービスについては、それぞれが長い経過をふまえて実施されており、現状において制度の違いやサービスの格差が多く、点で見られます。市町村合併を進めるにあたっては、合併のメリットを事務事業の中でどのように実現するか、またデメリットをどのように調整し、解消するのが最も重要です。

「広報うすだ」では 4 市町村の事業内容などをお知らせしていきます。

市町村合併を 考えよう！

No 15

	佐久市	臼田町	浅科村	御代田町
地勢・概要	佐久市は、佐久平の中央に位置し、北は小諸市、北佐久郡御代田町、軽井沢町、南は臼田町、東は群馬県、西は北佐久郡浅科村、望月町に接している。 また、東西を山々に囲まれ、千曲川が、滑津川、湯川などの支流を集め、市の中央部を南北に貫流し、肥沃な耕地を形成している。	臼田町は、佐久平の南部に位置し、北から西は佐久市、南は南佐久郡佐久町、東は群馬県に接している。 また、東西を山々に囲まれ、町の中央を千曲川が南北に流れ、その両岸に肥沃な平地を構成している。	浅科村は、佐久平の西部に位置し、北は小諸市、北佐久郡北御牧村、南から東は佐久市、南から西は北佐久郡望月町に接している。 また、南北を山々に囲まれ、村の東側を千曲川が南北に流れ、左岸の河岸段丘には粘土質の平地が広がっている。	御代田町は、佐久平の北部に位置し、北は群馬県、南は佐久市、東は北佐久郡軽井沢町、西は小諸市に接している。 また、浅間山南麓の扇状地からなる平坦地で構成され、浅間山を源泉とする湯川などが東西に流れ、多くの沢地を有している。
面積	1 9 2.6 2 km ²	8 3.2 1 km ²	1 9.5 2 km ²	5 8.7 8 km ²
観光	佐久市の観光は、内山峡、美笹湖など既存の資源のほか、観光拠点作りとして佐久平ハイウェイオアシスパラダなど観光施設の整備がされ、年間観光客数は 1 1 0 万人前後を維持している。 しかし、通過型観光地としての性格が強く、広域観光ルート地点としての優位性が十分に発揮されていないという課題を抱えている。 国道 1 4 1 号・バイパス、1 4 2 号及び 2 5 4 号の幹線道路と、JR 小海線駅が設置され、交通の便はよい。	臼田町の観光は、文化財愛護モデル町村に指定されるなど、豊かな歴史・文化遺産に恵まれている。龍岡城五稜郭は国内に 2 箇所しかない五稜郭の 1 つで、年間 2. 5 万人の観光客が訪れる。 また、町の個性化を進める上で、東洋一を誇るパラボラアンテナなど星に関連した施設の有効活用を進めている。 国道 1 4 1 号及びバイパスの幹線道路と、JR 小海線駅が設置され、南北の交通の便はよい。	浅科村の観光は、国定重要文化財である高良社や、旧中山道 2 3 番目千曲川川越しの宿として栄えた塩名田宿、皇女和宮が降嫁の折に宿泊した 2 4 番目の宿場八幡宿など、歴史的な史跡や温泉施設の穂の香乃湯を有しているが、他市町村への通過点にとどまっているのが現状である。 国道 1 4 2 号の幹線道路が村の中央を走り、東西への交通の便はよい。	御代田町の観光は、平成 7 年に開館したメルシャン軽井沢美術館を核に集客が行われ、長野オリンピック以降は龍神祭と合わせて夏場の観光客を中心に年間観光客は 2 0 万人前後に推移している。しかし、軽井沢町から足を伸ばす日帰り客が大半であり、リピーター、宿泊客をどう集客するかという課題を抱えている。 国道 1 8 号の幹線道路と、しなの鉄道駅が設置され、東西への交通の便はよい。
農業等 (H12 農業センサス)	佐久市の農業は、千曲川両岸に広がる肥沃な平地を利用した稲作が中心で、農業粗生産額の半数を占めている。しかし、一戸当たりの経営耕地面積は約 5 8 a で、兼業化率 8 2 % と高く、農家人口、農業粗生産額ともに減少傾向にある。また、農業従事者の高齢化が進んでいる。 水田にコイやフナを養殖するため、低農業栽培が行われ、「さくさく米」としてブランド化を図っている。 代表的な農業産品 ・米 ・花卉 ・果樹	臼田町の農業は、千曲川両岸に広がる肥沃な土地を利用した稲作、花卉が中心で、農業粗生産額の半数を占めている。しかし、一戸当たりの経営耕地面積は 5 0 a で兼業化率も 7 8 % と高く、農家人口、農業粗生産額ともに減少傾向にある。また、農業従事者の高齢化が進んでいる。 堆肥センターの活用などによる有機栽培の促進や臼田町有機農業認証制度による付加価値化に取り組んでいる。 代表的な農業産品 ・米 ・花卉 ・果物（ブルーベリー）	浅科村の農業は、千曲川左岸に広がる平地で、歴史的にも有名な五郎兵衛用水からの豊富な水を利用した稲作が中心で、農業粗生産額の半数を占めている。しかし、兼業農家率が 8 2 % と高く、農業従事者の高齢化も進んでいるため、農業粗生産額は減少傾向にある。一戸当たりの経営耕地面積が約 6 1 a である。 五郎兵衛新田用水で育った、五郎兵衛米や矢島地区で作られる凍み豆腐の産地として県内では有名である。 代表的な農業産品 ・米（五郎兵衛米） ・凍み豆腐	御代田町の農業は、浅間山南麓に広がる標高 8 0 0 m 以上の土地を利用した高原野菜の生産が中心で、農業粗生産額の 8 割以上を占めている。農業従事者の高齢化が進んでおり、農業粗生産額も減少傾向にある。しかし、農業一戸当たりの農業粗生産額は高い。一戸当たりの経営耕地面積は 8 0 a である。 県内有数の高原野菜の産地である。 代表的な農業産品 ・高原野菜（レタス、ブロッコリー等）

「合併」一人ひとりの問題

積極的な参加を

社会変化に

行政も変革を推進

五〇二十年後の近い将来、人口割合の一番多い「団塊の世代」と呼ばれる五十歳前後の人たちが高齢期に入っていきます。

これまで、町の社会経済を支えてきたこの皆さんを、これからは次の世代で支えていくことになります。

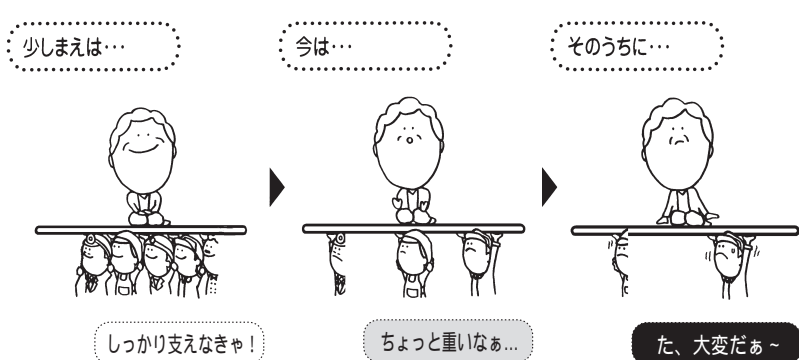
《少子高齢化》

臼田町の状況は？

町の人口割合で見た場合、二十年前はお年寄り一人を四・六人の労働生産人口で支える状況でした。働く人が多く、広く浅い負担で高齢者を支えることが出来ていました。

ところが、すでに平成十二年にはお年寄り一人を二・五人で支える状況となっており、このまま出生率を維持したとしても二十年后にはわずか一・六人で支えていかなければならなくないと推計されています。

臼田町は人口が減少し続けて



います。このまま支える労働者が少なくなれば、家庭も、町も増える負担により一層厳しい状況となるのは間違いありません。行政サービスも、現状を維持することさえ難しくなるでしょう。

行政サービスの維持には

財政力の強化が求められます

市町村は、これまで国・県からの補助により多くの事業を行っている、行政運営をしてきました。

ところが県は昨年十一月に、財政改革推進プログラム(案)を市町村に示してきました。県の行政運営は既に切迫した状況であり、歳出を見直すため、市町村に関連した事業への支出を抑える内容が記されています。

国の交付税削減は既に始まっており、避けられない状況になっています。それに続くように県も歳出カットの方針を打ち出し始めました。

財源不足の市町村にとって経費の削減は合併に関わらず検討すべき状況になっています。

自身の財政力で対応できるところまで人件費等を抑え、事務事業サービスを直さないといけなくなるでしょう。

財政力の強化はそこに住む住民のためにも、全ての市町村で共通の課題となっています。

国・県が構造改革の流れにある一方、地方行政体制の多くは昭和三十年前後の昭和の大合併のまま、五十年間そのままの組織形態で継続されています。

住民の生活圏・生活様式・ニーズも大きく変化し、行政改革も求められている現在、合併によるスリム化と財政基盤の強化は必要不可欠な問題として検討されています。

また、住民生活圏に行政体を合わせることで、皆さんの消費を効率的に行政サービスへと振り向けることができるのではないのでしょうか。

合併すると

どうなるの？

今、盛んに聞かれる言葉です。もし、合併しないで臼田町が単



ほぼ毎月開催される
任意合併協議会の様子

次回任意合併協議会 開催のお知らせ

日時

平成15年 3月 6日(木)

午前 9時から

場所

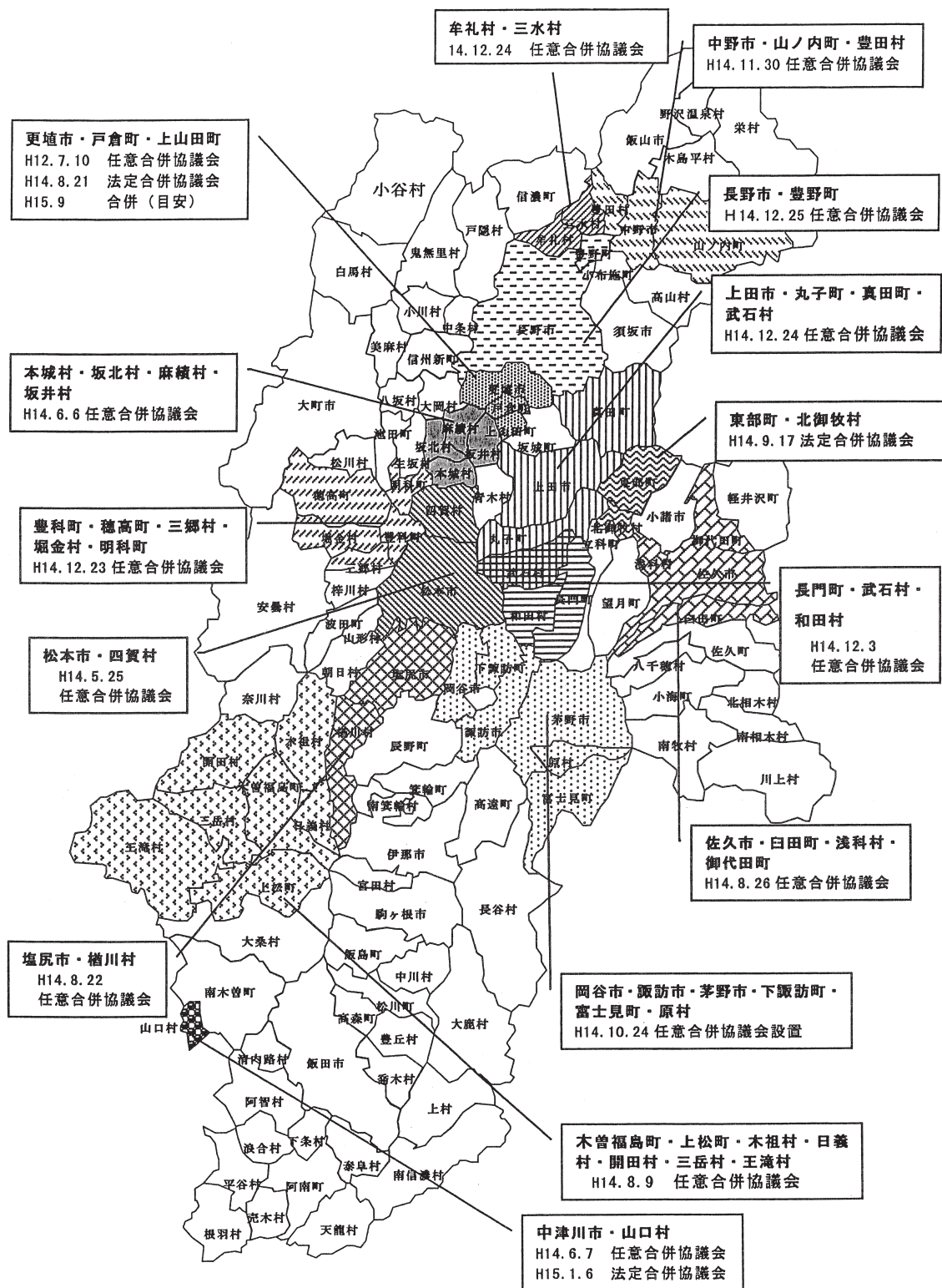
野沢会館(佐久市)

(旧リッチランド)

独で行財政運営を行っていた場合、前述のような心配があるわけですが、四市町村が協力して合併し、国の援助を受けられるのなら、住民の負担を抑えながら行政改革ができるでしょう。一定規模の自治体になることにより、より多くの皆さんで「広く、浅く」支え合う。合併のメリットはそこにあると思います。

そして、より具体的なものについては、四市町村及び任意合併協議会で協議されている「すり合わせ調整案」により、これからの合併の判断材料として皆さんにお知らせしていくことができます。

県内の法定・任意合併協議会の設置状況
(平成15年1月6日現在)



お知らせ 閲覧は町でも行っています ~任意協資料~

現在、協議が整っている事務事業のすり合わせ調整案については、皆さんに関係の深い項目を「任意合併協議会だより」にてお知らせしていますが、その資料の詳細については、任意合併協議会事務局及び町企画調整課において閲覧ができますので、お出かけください。